

令和3年度 AMG方針

ビジョン 良質で安全・安心・信頼の医療・介護を提供し、地域に貢献する

革新 Innovation to the Future

この時代を切り開く!

医療・介護現場は、高齢化による疾病構造の変化や医療従事者の偏在・不足など、さまざまな課題に直面しています。また、新型コロナウイルス感染症の到来によって、さらに大きな変化が求められこととなりました。しかし、我々AMGとして「良質で信頼される医療・介護を提供する」ことの使命は変わりません。今年度の統一テーマとした「革新」は、旧来の慣例にとられない柔軟な考えにより、新しい技術や仕組みも取り入れて、この時代にマッチした組織へと革新することです。持続可能な医療・介護の提供基盤をつくり、これからの未来を切り開いていきます。

1. 患者（利用者）中心の医療・介護の推進

・患者（利用者）ニーズの検証による積極的な改善・効率化の活動
患者（利用者）のニーズを的確にとらえること、そして、改善活動のPDCAサイクルを適切に回す組織的な対応が求められる。患者（利用者）ニーズの収集は、患者満足度調査（外来・入院）の定期的実施、意見箱、クレーム報告など、多方面から収集することが大切である。質の高いサービス提供を継続するには組織全体で改善活動を確実に実行する仕組みづくりが求められる。

・アウトカム指標の効果的な活用による医療・介護の質の向上
アウトカム指標は、自施設の機能を適切なインディケータ（指標）を用いて分析し、その改善を促すことにより医療・介護サービスの質の向上を図ることが目的であり、改善策の発見、改善への動機づけ、改善効果をモニタリングするためのツールとなる。この指標を定期的かつ継続的にモニタリングする体制整備を行い、職員へのフィードバックを通じて多くの改善策を見出し、有効性を継続的に判断していく仕組みが求められる。アウトカム指標については、毎年、項目の追加や見直しなどを行うことが大切であり、ホームページなどで情報公開が求められている。

・必要な情報をわかりやすく発信【ホームページの中身をより詳細にする】
自施設の強みや取り組みなどの必要な情報を地域へわかりやすく発信することが求められる。そのために、ホームページなどを積極的に改良することが重要となる。ホームページは、地域及び患者（利用者）、紹介元、求職者のそれぞれにとってわかりやすく有益な情報でなければならない。協議会から毎月発信されるホームページのアクセス解析などの活用や協議会広報支援室に相談して進めることも大切である。

2. 地域と密着した医療・介護の実践

・地域連携の強化（紹介件数アップ）
紹介件数（患者・利用者）のアップは、地域から求められる医療、介護実現のアウトカムとなる。そのためには、毎月の紹介元別件数の把握や、病院では、さらに詳細な外来診療科別、入院機能別件数などの紹介データを組織で把握することが求められる。

・切れ目のない医療・介護のための在宅事業の強化（人員強化を含む）
超高齢化社会による在宅対象者の増加を踏まえて地域医療構想・地域包括ケアシステムの実現として、在宅事業を強化することが地域の貢献となる。病院については、特に訪問診療の増枠を重点におき、他の在宅サービスと合わせた強化を行うことが求められる。

3. 健全経営の継続

・予算達成に向けた組織的活動
医療・介護の事業は、厳しい状況が強いられている。経営においては常に適切に投資を続けていかなければ組織の発展はない。そのために各病院・施設においては、確実な予算達成が求められる。予算達成に向けて目標管理では収支面のみならず、昨今の診療報酬、介護報酬は質の評価と密接な関係となっており、あらゆる分野で目標管理を適切に行い各部門、各チームの方向性を示すことが大切である。また、感染拡大防止策の徹底による経営の安定化が求められる。

・介護報酬改定・次期診療報酬改定に向けた組織的な取り組み
介護報酬改定ではこれまでも評価されてきている地域包括ケアシステムの推進や自立支援・重症化防止に加え、今後評価されてくると想定される COVID-19 などの感染症対策や質評価なども的確にとらえ取り組んでいく必要がある。また、次期診療報酬改定でも早期から情報収集を行い適切な対策が必要となる。

・予防医療の強化と二次健診受診率の向上（病院・クリニック）
超高齢化社会の到来に伴い加齢とともに健康に問題を抱える人口が増加することから、このニーズに対応することが重要である。また、それに伴いD判定（要精査）対象者を確実に受診につなげることが健全経営につながるから、D判定患者の受診件数の確実なアップが求められる。

4. 人財の育成

・リーダーにおける目標管理能力の向上
リーダーシップとは、集団を統率し目標達成に向けて課題を遂行及び先導する力であり、リーダー職に求められる必須の能力として目標管理が挙げられる。目標設定は、何をすべきかを理解してこそ、正しい設定ができるようになり、適切な目標設定をすることで、リーダー自身や部下、部門の業務が効率化される。また、自発的な目標設定により、モチベーションを喚起し、スタッフの能力を最大限に発揮させることができる。目標設定は、組織全体、部門、部署は当然であるが、さらに、委員会、プロジェクトチームなどの階層にまで拡大することが求められる。そして、カテゴリは少なくとも「医療・介護・業務の質」「人財育成」「マネジメント」の視点を設定し、「誰が」「何を」「いつまでに」「どの程度」実行するかを具体的に示すことが大切である。「良い組織風土」とは、共通の目標達成に向け、全職員が一体となって立ち向かっている組織の姿が、職員一人ひとりの意識や行動パターンに植え付けられた環境である。令和3年度については、それぞれの課題を洗い出し、目標設定から評価までの一連の目標管理を通じてリーダー育成に活用し組織の革新につなげる。

・プレゼンテーションスキルの向上、資格取得支援を推奨した人財育成
プレゼンテーションを行う機会は非常に多くなっている。一方、資料の準備や原稿の作成など、プレゼンテーションに対して苦手意識を持っている職員は少なくない。プレゼンテーションの目的は、自分の考えや学びを伝え、相手の行動や思考に影響力を与えることであり、説明や情報に共感してもらうためにも資料作成の準備を万全に行わなくてはならない。そのため、プレゼンテーションを通して得ることができるスキルは非常に重要なものが多く含まれている。職員には、その機会を多く与え、学会・研究発表、内部・外部の勉強会講師などを通じてスキルアップの支援が求められる。また、論文、医療関連雑誌の執筆掲載などを経験することも重要である。これらを入財育成として、部門や個人の入財育成のカテゴリに目標設定とすることが大切である。また、年間活動実績として医師だけでなく、全職員の実績を組織で取りまとめをすることが求められる。

5. 継続的質改善の取り組み

・タスクシフト・タスクシェアの推奨
タスクシフトという言葉は、働き方改革からクローズアップされた言葉であるが、勤務時間などの法令遵守はもとより、多職種協働によるルールや仕組みの見直しなどを同時に行うことにより、タスクシフトの活動が、更なる現場の効率化を実現させる経営改善ツールになる。また、デジタル化（IT、システム、また、Excel などの活用により様々な効果が得られる）や新たな仕組みなどへのタスクシフトも業務ごとに検討し業務効率アップや環境改善が図れるものは積極的に活用していく組織体制が重要である。

・感染対策の強化
地域に安心安全な医療・介護を提供する基盤として感染症対策の徹底が求められる。また、感染症を拡大させない仕組みづくりや職員一人ひとりの自己管理を行い、適切な感染防止策を実施する必要がある。

マネジメント目標						
項目	単位	対象	項目	単位	対象	
1. 病床稼働率			7. リハビリテーション提供単位数			
一般	89%以上	% (病)	回復期 脳血管	8 単位以上	単位	(病)
療養・障害	97%以上	% (病)	運動器	6 単位以上	単位	(病)
精神	95%以上	% (病)	一般他	3.5 単位以上	単位	(病)
回復期	95%以上	% (病)	医療療養（13 単位除く）	2.5 単位以上	単位	(病)
地域包括ケア	92%以上	% (病)	8. 健診収入アップ	前年対比 10%UP 以上	%	(病)
緩和ケア	85%以上	% (病)	9. 二次健診（検診）受診者数	前年対比 10%UP 以上	%	(病)
2. 救急受け入れ件数	前年対比 10% UP 以上	月間 件 (病)	10. 在宅事業総収入アップ率	前年対比 10%UP 以上	%	(病・老)
3. 救急受け入れ率	80%以上	% (病)	11. 訪問診療件数	前年対比 20%UP 以上	件	(病)
4. 新患者数	前年対比 10% UP 以上	月間 件 (病)	12. 職員離職率	10% 以内	%	(病・老)
5. 新入院患者数	前年対比 10% UP 以上	月間 件 (病)	13. 入所稼働率	97% 以上	%	(老)
6. 紹介患者数	前年対比 10% UP 以上	月間 件 (病)	14. 通所延利用者数	前年対比 10%UP	%	(老)
※対象	病院：(病)、老健：(老)		15. 在宅復帰・在宅療養支援等指標	65 以上		(老)